

E K F L 高ナット (異形鉄筋インサート) M 3 6 許容せん断荷重計算書

株式会社タケネ

コンクリート躯体中に定着された E K F L 高ナット 1 本当たりの許容せん断荷重は、日本建築学会各種合成構造設計指針のアンカーボルトの設計を参考とし、次の式で算定される。

$$\begin{aligned}
 (1) \quad Q_{a1} &= \phi_1 \cdot s \sigma_{qa} \cdot s c A_b && \text{※ボルトの許容せん断荷重 (N)} \\
 (2) \quad Q_{a2} &= \phi_1 \cdot c \sigma_{qa} \cdot s c A_i && \text{※定着したコンクリート躯体の支圧強度によるインサート許容せん断荷重 (N)} \\
 (3) \quad Q_{a3} &= \phi_1 \cdot c \sigma_t \cdot A_{qc} && \text{※定着したコンクリート躯体のコーン状破壊によるインサート許容せん断荷重 (N)} \\
 Q &= \text{Min}(Q_{a1}, Q_{a2}, Q_{a3}) && \text{※上記のうち、最小の計算値を許容せん断荷重とする}
 \end{aligned}$$

ϕ_1 : 低減係数 (長期荷重用 1/3 短期荷重用 (1)式→1/2 (2)式→2/3)

$s \sigma_{qa}$: ボルト (SS400 相当) のせん断強度 $s \sigma_{qa} = s \sigma_y / \sqrt{3}$ とする

$s \sigma_y$: ボルト (SS400 相当) の規格降伏点強度 $s \sigma_y = 235 \text{ (N/mm}^2\text{)}$

$s c A_b$: ボルトのネジ部有効断面積 (mm^2)

$c \sigma_{qa}$: コンクリートの支圧強度 $c \sigma_{qa} = 0.5 \sqrt{F_c \cdot E_c} = 427.8 \text{ (N/mm}^2\text{)}$ で計算する

F_c : コンクリートの設計基準強度 $F_c = 30 \text{ (N/mm}^2\text{)}$ で計算する

E_c : コンクリートのヤング係数 $E_c = 2.44 \times 10^4 \text{ (N/mm}^2\text{)}$ で計算する

$s c A_i$: インサートの材料断面積 (mm^2)

$c \sigma_t$: コーン状破壊に対するコンクリートの引張強度 $c \sigma_t = 0.31 \sqrt{F_c} = 1.7 \text{ (N/mm}^2\text{)}$ で計算する

A_{qc} : コンクリートのコーン状破壊面 (せん断力方向の側面) の有効水平投影面積 (mm^2) (※下図参照)

1. 許容せん断荷重の計算

(1) ボルト許容せん断荷重の計算

M 3 6 ボルトのネジ部有効断面積 $s c A_b = 817 \text{ (mm}^2\text{)}$

長期荷重時 $Q_{a1} = 1/3 * (235 / \sqrt{3}) * 817 = 36951 \text{ (N)} \approx 37.0 \text{ (kN)} (\approx 3776 \text{ kgf})$

短期荷重時 $Q_{a1} = 1/2 * (235 / \sqrt{3}) * 817 = 55426 \text{ (N)} \approx 55.4 \text{ (kN)} (\approx 5653 \text{ kgf})$

(2) コンクリート支圧強度によるインサート許容せん断荷重の計算

インサートの材料 D 5 1 断面積 $s c A_i = 2027 \text{ (mm}^2\text{)}$

長期荷重時 $Q_{a2} = 1/3 * 427.8 * 2027 = 289050 \text{ (N)} \approx 289.1 \text{ (kN)} (\approx 29500 \text{ kgf})$

短期荷重時 $Q_{a2} = 2/3 * 427.8 * 2027 = 578100 \text{ (N)} \approx 578.1 \text{ (kN)} (\approx 58990 \text{ kgf})$

$Q = \text{Min}(Q_{a1}, Q_{a2})$ より許容せん断荷重は、長期荷重時 37.0 (kN)、短期荷重時 55.4 (kN) とする。

2. せん断力方向側面のコーン状破壊を考慮したへりあき寸法の計算

へりあき寸法を c (mm) とする。(3)式より $Q_{a3} = 1/3 * 1.7 * (0.5 * 3.14 * c^2) > 36951 \text{ (N)}$ となる c を計算すると、 $c > 204 \text{ (mm)}$ となる。指針では、へりあき寸法を材料径の 3 倍以上としているが、異形鉄筋 D51 の公称直径は 50.8mm で、 $50.8 * 3 = 152.4 < 204$ となり、条件を満たしている。

